



(社)全高P連会報

社団法人全国高等学校PTA連合会（連絡先）〒101-0025 東京都千代田区神田佐久間町2-1（奥田ビル）TEL03-5835-5711 FAX03-5835-5757
 発行人 相川順子 URL <http://www.zenkouren.org/> eメール info@zenkouren.org

平成二十四年度 全高P連活動方針

平成二十三年度

第二回総会報告

2月11日、本年度第二回総会が開催され、次のように事業計画等が決定しました。本紙では活動計画と研究大会について抜粋して掲載します。

平成二十四年度活動方針

本連合会は社団法人から一般社団法人に移行し、一般社団法人全国高等学校PTA連合会の名称で新しい組織に生まれ変わった。これを機に本連合会は高校生の健全育成を柱とした諸事業をこれまで以上に充実させ、「子どもたちのために」活動していく。

ところで、平成18年12月に教育基本法の改訂が行われ、これをふまえて平成20年7月に「教育振興基本計画」が閣議決定された。そこには「社会全体で教育の向上に取り組み」ことが示され、身近な場所での子育て等の

支援を謳っている。PTAの拠って立つところはまさしく、この子育て支援にある。

本連合会は、科学技術の進展に伴って情報機器の普及、家庭の在り方など社会の様相が急激に変化し続ける中で、東日本大震災など大災害がもたらした諸々の課題を包含しつつも、子どもたちの健やかで逞しい成長・発達を願うものである。

また、子育て支援の充実と、適正を図るためには、組織自らが調査研究をすすめる、研修に努めることが大切である。事業の項目は以下のとおり。

(1) 高等学校PTA活動の質的向上と情報共有化に資する研究大会、講演会、研修会等の開催

(2) 高等学校PTA活動に関する調査研究

(3) 青少年の健全育成及び生涯学習に資する情報の収集と提供

(4) 広報紙の刊行等による広報活動

(5) この法人の目的に沿った、顕著な業績をあげたPTAその他の団体及び個人の顕彰

(6) 社会環境（教育環境）整備のための活動、家庭の健全化を図る活動

(7) 賠償責任補償制度運営に関する活動

(8) その他緊急の対応

第六十二回全国大会

和歌山大会

学校教育・家庭教育の振興、青少年の健全育成、高等学校PTA活動の質的向上及び情報の共有化を図るため、第六十二回全国高等学校PTA連合会大会和歌山大会を、平成24年8月22日（水）～24日（金）の3日にわたって開催する。「和歌山ビッグホエール」をメイン会場として、サブ会場には「武道・体育センター和歌山ビッグウエーブ」・分科会は前記の2会場のほか「和歌山市民会館」、「紀南文化会館」を加えて展開する。

地区大会

テーマは「和をもって響き合え！ つれもて広げる 共育の輪」

・北海道地区

6月15日（金）16日（土）旭川市

・東北地区

7月12日（木）13日（金）福島市

・関東地区

7月6日（金）7日（土）千葉市

・東京地区

7月14日（土）千代田区

・北信越地区

7月6日（金）7日（土）富山市

・東海地区

6月15日（金）津市

・近畿地区

6月30日（土）神戸市

・中国四国地区

7月13日（金）徳島市

・九州地区

6月21日（木）22日（金）北九州市

一般社団法人に移行

このたび四月一日をもって社団法人から一般社団法人に移行いたしました。本号（第72号）は社団法人として最終号となります。

平成24年度 活動方針・事業計画	1頁
第2回総会・全国会長事務局長会議報告	2～3頁
シリーズ青春白書 全国からの便り一輝く姿がここにあり	
鳥取県立鳥取中央育英高等学校	
校訓「克己」～克己の徳を備えた人間力豊かな生徒の育成をめざして～	4頁
熊本県立八代農業高等学校泉分校	
校訓「礼節を重んず」「勤労を尚ぶ」「誠実に生く」	
☆スローガン～心を耕し 人を育む 地域とともに～	5頁

今号の主な内容

平成23年度 「全国高校生 生活・意識調査」の調査結果概要・アンケート結果	6～8頁
シリーズ視点	
～各地区の活動～ 中四国地区 徳島県連の活動から「自転車事故防止への取り組み」	10頁
各委員会報告	11頁
第62回全国大会和歌山大会のご案内	12頁

第二回総会報告

子どもたちを温かく支援するために！

平成二十三年度第二回総会が2月11日に、全国会長・事務局長会議は翌12日に開かれた。

総会の冒頭、相川順子会長は、昨年度の第二回総会のひと月後に、東日本大震災を経験した。被災された東北の方々・関東地区で被害を受けた

方々に対して多くの皆様より温かいご支援をいただいた。今、被災地では力強く前へ進もうと励んでいるので、今後も引き続き支援の手をさしのべてほしい。

また、本年度の事業を振り返ったとき、通常の事業をいかに効果的に



会長挨拶

行っていくかという課題を与えられた。そのために組織等検討委員会（3P参照）を立ち上げ議論を積み重ねてきた。本会が一般社団法人に切り替わる時期にきているので、新しいスタートを切るために子どもたちを温かく支援する議論をしていただきたいと挨拶した。

続いて平成二十四年度の事業計画が採択された。主なものは次のとおり。

平成十八年度から継続的に全国規模のアンケート調査を実施し、その分析結果を踏まえた子どもたちへの支援を行ってきた。独自性と自立性を確保した自主事業とし、隔年で実施するための準備を進める。

また、本連合会では平成11年から（財）日本宝くじ協会の助成により、保護者向け薬物乱用防止パンフレット「お父さん、お母さん『うちの子に限って』は危険です!!」を学識経験者の協力のもとに編集・発行し、薬物の怖さを保護者に訴え続けてきた。平成二十四年度も改訂版を作成し薬物乱用による怖さから子どもたちを守りたい。

さらに、自転車による事故が急増していることを鑑みて、子どもたちが被害者にならない、加害者の交通安全週間を標準に「自転車、バイク、歩行者 マナーアップ大作戦」全国強化月間を設定する。

進路対策としては、これまでの、雇用促進・確保の要請の他に大学進学について秋入学の動きの情報収集し、必要に応じて発信する。

平成二十四年度収支予算案の審議では本年度充足した「組織等検討委員会」（3P参照）の検討結果をふまえ、委員長より予算編成に係る趣旨説明が行われ、経費を抑え、理事数や委員会活動費の削減を行って収支予算は承認された。

四年後の全国大会

平成二十七年第六十四回全国大会の開催地として、満場一致で岩手県に依頼した。

これを受けて、岩手県高P連会長松尾氏からは、「全国からの参加を心からお迎えしたい」と力

全国会長・事務局長会議

強い決意表明があった。総会ではそのほか、新定款の一部変更など、法人組織の整備について審議されたほか、全国大会北海道大会事業報告、全国大会和歌山大会の概要について報告がおこなわれ、総会は終了した。

本年度第二回全国会長・事務局長会議では、

冒頭に昨年夏行われた生徒と保護者対象のアンケート「全国高校生生活・意識調査」の結果分析を中心に、京都大学准教授木原雅子氏の報告会が開催された。友だちや保護者との関係が自己肯定感に大きな影響を与え

ている。ケータイ利用時間が増え、高校生の学習時間が少ない状態である。お父さんの存在感が薄いなど、親として心配な結果が報告された。（本紙6P）と全高P連HPを参照されたい。）

児童福祉週間

毎年五月五日の子どもの日から一週間を児童福祉週間と定めております。各団体・組織の取り組みをお願いします。（内閣府）

京都大学 木原准教授



組織等検討委員会報告

組織等検討委員会は、

全国高P連の財政状態及び収支改善を図るため、中長期の検討が必要となり、平成23年5月15日に開催された平成二十二年度第五回理事会にて委員会設置を決定、同年6月25日の平成二十三年度第一回総会において発足した。

本年度の検討内容は次のとおり。

①経費の削減②自主事業の確認③組織等の見直し④収支構造⑤その他

同委員会では全国高P連の財政状態の健全化と収支の改善のための真剣な議論が交わされた結果、責任ある法人として、財政基盤の裏付けのある組織として存続していかねければならないとの結論に至った。

最終の委員会における答申としては、収支改善のための計画は、地区、都道府県市の組織へ与える影響が大きいことから、今後の実施については、十分に配慮する必要がある。会費等の変更スケジュールについては早めに周知するよう努めることとする、というもの

です。

第五回高校生と保護者の進路に関する意識調査結果報告について

2月11日、総会に先だって、調査結果報告会が開かれた。報告者はリクルート社キャリアガイダンス編集室の原礼子氏。

この調査はリクルート社と協同で隔年に実施しているアンケート調査で、今回は5回目。

今回の調査は、全高P連の進路対策委員会とリクルート社の合同の打合わせを昨年6月、第一回進路対策委員会において実施し、9月中旬に全国27の高校2年生約2,200名の生徒及びその保護者の協力を得て調査したもの。



リクルート社 原 礼子氏

原氏の報告に拠れば、進学を希望する保護者にとって重要な情報は各大学のホームページから得ている。また学費や生活費などの諸費用についての情報を重視する傾向が見られる。大学の知名度より就職先や実績に関心が高まる傾向にあるなど、近頃の経済状況を反映するものとして、興味深いデータの報告があった。

同調査結果報告書は全高P連ホームページの活動紹介の項で閲覧できる。

や有害情報などについて、これまで各PTAの健全育成委員会等での対策を検討したり、あるいは関係省庁を通じて関連企業に改善を求めたりした経緯がある。

講演 「スマートフォンの特徴と高校生の利用上の課題について」

全国会長・事務局長会議に先だって、千葉大学教授の藤川大祐氏より「スマートフォンの特徴と高校生の利用上の課題について」と題して講演が行われた。

現在、高校生の約4割がスマートフォンを利用していると推測され、今後ますます利用拡大傾向にある。これまでも高校生のケータイ利用については、フィルタリングの有効性を訴え、個人情報報

告の重要性を訴え、個人情報報



千葉大学 藤川大祐教授

①詐欺被害（加害・福祉犯被害・薬物売買）
②掲示板やツイッター等への問題ある投稿による炎上。
③ケータイ依存、友人や家族との関係への影響（ゲーム料金の高額課金等）。

以上をあげて、警鐘を鳴らされた。

楽しい、元気がでる！そして、ためになる。

高校生新聞®

高校生スポーツ®



高校生新聞・高校生スポーツは、全国の高校生の活躍、勉強法・健康管理などのアドバイス、ニュース解説、進路情報など、高校生の生きる力と知恵をはぐくむ情報が満載です。高等学校の教室で愛読されているほか、ご家庭でも購読いただけます。取材のご希望も歓迎です。編集部までご連絡ください。

無料購読キャンペーン実施中！

高校卒業まで毎月、無料で自宅にお届けするキャンペーンを実施中。ホームページ（「高校生新聞」で検索）から申し込みください！！

SP 株式会社 スクールパートナーズ

高校生新聞社

http://www.koukousei-sinbun.co.jp/

おかげさまで
高校生新聞
創刊
20周年
200号

本社：〒194-0022 東京都町田市森野1-34-10
TEL.042-725-1155 henshu@koukousei-sinbun.co.jp
西日本支社：〒532-000 大阪府大阪市淀川区宮原5-1-3
北海道支社：〒060-0807 北海道札幌市北区北七条西4-8-3

●1993年創刊 ●全国4,000校(2,785,309人)の生徒が愛読
●タブロイド判オールカラー平均24ページ ●毎月10日発行(8・3月休刊)

鳥取県立鳥取中央育英高等学校

校訓「克己」

「克己の徳を備えた人間力豊かな生徒の育成をめざして」

【学校概要・部活動・運動会・進路】

が国公立大学へ進学している。

【特色あるPTA活動】

本校は一九〇六年に豊田太蔵（とよだたぞう）氏が創設した私立育英（いくえいこう）を前身とする単位制普通科高校（各学年・普通コース3クラス、体育コース1クラス）である。陸上競技部、水球部、レスリング部など数多くの部が毎年全国大会で活躍している。体育コースをもつ高校の特色を活かす目的で「秋の大運動会」を平成22年秋に30数年ぶりに復活させた。本校は進学指導にも力を入れており、学年生徒全体の約6割が大学入試センター試験を受験し、毎年20数名



PTA親睦球技大会

「なるべく多くの保護者がなるべく多くの場面で学校教育に関わっていただくことで、先生方と一緒に

「なるべく多くの保護者がなるべく多くの場面で学校教育に関わっていただくことで、先生方と一緒に」の思いがある池田PTA会長の発案により、「PTA親睦球技大会」の第一回目を平成23年6月12日（日）の午後、学校体育館で実施した。上手下手関係なく誰でも楽しめるものを、ということと「キンボール」が実施種目に



育英祭でのPTAバザー

採用された。参加者50名ほどが二、三時間汗をかけた後、会場を近くのレストランに移して懇親会も実施し、保護者と教員の距離もぐっと縮まった。来年度以降も継続する予定である。

本校では毎年7月の最初の土、日、月に学校祭「育英祭」を行っている。生徒会が自主的に企画運営し、合唱コンクールや舞台発表や模擬店がメイン行事である。二日目の日曜日には特に保護者が多く来校し、我が子の活躍の場面をビデオカメラ

に収めている姿がよく見かけられる。ところで本校PTAは見る側にいるだけではない。PTA自身毎年「焼きそば」「お好み焼き」の模擬店を出店しているのである。約50人の保護者が前日準備、当日の調理販売などに楽しく参加し、事後に反省会（懇親会）を持つほどの盛り上がりを見せる。模擬店が実施される土・日の昼時は、PTAの模擬店の前にできる列が一番長く、用意された数百食は一時間足らずで売り切れてしまう。もちろん売上金は生徒の日々の活動に還元されている。

「秋の大運動会」は、なるべくたくさんの保護者や地域住民の方にも見ていただく狙いで、学校から1kmほど離れた芝生の多目的広場（町営で「大駐車場完備」）を利用させていただいている。その会場に生徒席、保護者席、職員席、一般観客席としてテントを約30張用意しなければならないが本校自前のテントだけでは足りず、保護者が地域の自治体所有のものを借用し、その運搬・設置・撤去のすべてのプロセスで保護者が活躍している。小学校・中学校では普通に行われている一〇〇メートル競走やクラス対抗リレーや一五〇メートル競走のような大真面目な種目では、各競技において勝



秋の大運動会



由良駅前での挨拶運動

ち負けに関係なく最後まで全力を尽くす姿勢が大切であるということとこの大運動会の意義と位置付けている。

本校PTA組織の一つに「育成委員会」がある。この委員会は、保護者2名と教員一名がチームとなり、夕刻、月一、二回のペースで学校周辺の通学路や駅や商店などを巡回し、通学マナー向上や挨拶の励行の指導を行っている。また鳥取県教育委員会が主催する「高校生マナーアップさわやか運動」（年間三回実施）と連動して、駅周辺での挨拶運動・歩行マナー指導・自転車マナー指導・生徒玄関前での挨拶運動をこの委員会が中心となって行っている。



らの便り こにある」vol.15

ひたすらに頑張る子どもたち。
をもって導く先生たち、
Aの仲間の姿をお伝えします。

「青春自書全国か 一輝く姿がこ

未来を見つめ、夢を追い求め、
その子どもたちを熱意
そしてPT

【学校の概要】

本校は昭和30年、熊本県立八代農業高等学校の泉分校として定時制農業科からスタートした。その後、全日制に変わり、昭和43年に林業科に変更となる。そして平成10年に全国で初めてグリーンライフ科に学科改編して、今日に至っている。これまでの卒業生は、千三百人余りで、県内を中心に各分野で活躍している。

【特色あるグリーンライフ科】

「森で学ぶ、森に学ぶ」をキャッチフレーズに恵まれた自然環境を活用し、自然と人間生活の調和を体験的に学ばせるとともに、環境保全や資源活用する方法についての知識と技術を習得させ、新しい時代に即した産業人を育成することを目標に掲げている。

その目標達成のために、特色ある学校設定科目を四科目設定している。具体的な学習内容は以下のとおりである。

一、森で学ぶ↓アウトドアライフ(カヌー・マウンテンバイク・キャンプ等)、自然観察、ロープワーク、ネイチャークラフト、その他

二、森を守る↓環境緑化、森林整備、測量技術、プロジェクト研究、その他

三、森を活かす↓木炭・竹炭作り、溪流魚(アユ・ヤマメ)養殖、地域の資源を活かす取り組み、その他

四、ウッドクラフト↓木材の加工・接着・塗装・仕上げ、装飾品としての木材加工、玩具的な木材加工、日用品的な木材加工、その他

五、クライミング部↓県内では本校のみの部活動で、クライミング壁も設置してある。ジャパンカップ日本代表選考会にも出場している。他に阿蘇山や屋久島などの清掃登山も活動の一環として毎年行っている。

六、クライミング部↓県内では本校のみの部活動で、クライミング壁も設置してある。ジャパンカップ日本代表選考会にも出場している。他に阿蘇山や屋久島などの清掃登山も活動の一環として毎年行っている。

七、クライミング部↓県内では本校のみの部活動で、クライミング壁も設置してある。ジャパンカップ日本代表選考会にも出場している。他に阿蘇山や屋久島などの清掃登山も活動の一環として毎年行っている。

八、クライミング部↓県内では本校のみの部活動で、クライミング壁も設置してある。ジャパンカップ日本代表選考会にも出場している。他に阿蘇山や屋久島などの清掃登山も活動の一環として毎年行っている。



一、カヌー部↓最近、カヌーと水球を組み合わせたような「カヌーポロ競技」に取り組んでいる。今年度は九州カヌーポロ選手権大会での優勝をはじめ、日本代表候補者二名選出、イランであったアジア選手権大会に日本代表選手として参加し、堂々3位入賞を果たした。

二、マウンテンバイク部↓高校生だけの大会はないので、一般の方々と混じって競技に参加している。近年はジャパンシリーズにも参加し上位入賞を果たしている。今年度は、NHKの九州全域で放送されている「ぎん☆スタ 熱中学園」という番組で活動の内容が取り上げられ、多くの視聴者から大きな反響を得た。

三、クライミング部↓県内では本校のみの部活動で、クライミング壁も設置してある。ジャパンカップ日本代表選考会にも出場している。他に阿蘇山や屋久島などの清掃登山も活動の一環として毎年行っている。

また広報活動では、地元新聞社の企画で行われるPTA新聞コンクールに最優秀賞のグランプリをはじめ六年連続の入賞を果たしている。

熊本県立八代農業高等学校泉分校

校訓「礼節を重んず」「勤労を尚ぶ」「誠実に生く」

☆スローガン「心を耕し 人を育む 地域とともに」

【活発なPTA活動】
泉分校の学習内容が、子どもはもとより保護者もぜひ受けてみたい内容ということで、分校への関心の高さや学校への思いは他の高校を圧倒している。PTA総会の出席率や広報活動、体育大会や文化祭への参加状況等を見てもその凄さがうかが

い知れる。
PTA総会の出席率は、昨年度は83%、今年度は92%と、非常に高い出席率である。総会自体の内容もさることながら、総会後の懇親会が楽しみの会員が多い。夫婦で参加するところも多く、担任の先生を中心に、学年ごとの自己紹介や思いなど参加者全員が語るコーナーでは、笑いあり涙ありまた感動ありで、一度参加したら次回も是非参加しようと思うような懇親会である。



総会後の懇親会



PTA新聞の表彰式



文化祭で張切る保護者



気分は高校生？(飛び入り参加)

かり楽しんでいる状況である。

平成二十三年 度「全国高校生 生活・意識調査」の

調査結果概要・アンケート結果（学校生活の現状抜粋）

健全育成委員会

全高P連は、本年度健全育成委員会の事業として、「全国高校生生活・意識調査」を昨年度に続き実施しました。京都大学 木原雅子准教授、同大学こころの未来研究センター 内田由紀子准教授、全国高等学校長協会生徒指導委員会 前島宏明委員長、全国45校の協力によっておこなわれました。調査結果は分析・研究を木原准教授にお願いし、本紙に掲載した調査結果報告は紙数の都合で抜粋した内容です。詳しくは全高P連のホームページに掲載しましたのでご覧ください。

対象者・高校2年生

対象者数（分析対象者数）…高校2年生6,361人

（男子3,189人、女子3,106人）

（但し、性別不明61件、矛盾回答1件、途中放棄4件は分析から除外した）

*ここでは、特徴的な結果のみを紹介

*重要な知見は、太字で表示している

1. 友人への信頼感

・一番親しい友人への信頼感は、「とても信頼している」が60%前後（男子57.7%、女子62.1%）に留まり、かなりの高校生が一番親しい友人を心底信頼しているのではない可能性が示された。

・親しい理由で50%を超えたものは、男子では、「気が合うから」が72.1%

で最も高く、次が「何でも話せるから」が52.1%で半数を超えていた。女子

では、「気が合うから」が76.2%、「何でも話せるから」69.9%、「優しいから」56.6%、「おもしろいから」52.3%、「自分の気持ち」52.1%であり、上位2位の項目は男女共通していたが、女子の方が50%を超える理由数が

2. クラスの授業中の雰囲気

多かった。
★一番親しい友人でも全面的信頼感を持っているわけではない。

・最も多かったものは「まあまあ落ち着いている」で男女とも45%前後であった（男子41.5%、女子48.2%）。一方、「一部の生徒が勝手な行動をとっ

3. 学校で1人で過ごすことに対する意識

「昼食時間など、友達と一緒に過ごす1人でいることをどう思いますか？」

・男女とも、「非常に恥ずかしい」「やや恥ずかしい」という気持ちを持つ生徒が、男子40.0%、女子50.3%とかなりの割合に達していた。「非常に恥ずかしい」と答えた生徒も男女とも10%を超えており、学内で個人で行動することに對する強い

4. 高校生から見た本人および周囲の大人の間度の比較

ネガティブ感が示され、「友人」グループ帰属願望が強く、一緒に食事をする友達がいないなどの場合にはストレスを感じる可能性があることが示唆された。

★1人で過ごすことに対する羞恥心等のネガティブ感を持つ生徒が多い。

・人間度の定義…本人が世の中で一番尊敬している人の人間度を100とした場合、本人、先生、男性保護者、女性保護者の人間度をどのくらいかをたずねた。

・自分自身の人間度の平均値は男子42.1、女子40.8と男女とも40くらいであった。一方、先生（本人がこれまで出会った先生の中で最も好きな先生に對する回答）の人間度は、男子80.6、女子83.1、男性保

護者の人間度は男子69.6、女子69.4、女性保護者の人間度は男子73.7、女子79.6であり、好きな先生が最も高得点で、次が女性保護者、男性保護者の順であった。また、高校生の男女比較では、自分に対しては男子の方がやや高評価であるのに対し、周囲の大人に対しては、女子の方が高い数値を示していた。ただし、男性保護者に対しては男女とも同程度の意識であることが示された。

*近年、友だち親子、先生に對するためぐち、など大人に對する接し方が変化しているが、その背景に、自分も周囲の大人と同じ程度だと思っているのかあるいは接し方の変化だけなのかどうかを人間度という指標を使つて数値化を試みた。その結果、本人に對する評価と周囲の大人との間には2倍近い開きがあることから、全体としてみると、周囲の大人に對する親しげな（馴れ馴れしい）態度は、接し方の変化であり、本人も大人と同等であるという意識を持っているわけではない可能性

が示唆された。

5. 周囲の大人への尊敬の程度の比較

・先生（本人がこれまで出会った先生の中で最も好きな先生に対する回答）への尊敬の程度は、「とても尊敬している」が男子43.3%、女子45.3%で、男性保護者を「とても尊敬している」と回答したものは、男子21.8%、女子19.1%、女性保護者では男子25.4%、女子36.4%という結果が示された。

・前述の人間度同様、高校生から見た男性保護者に対する尊敬は、かなり低いことが示された。

・本調査では、先生は、これまで出会った先生の中で最も好きな先生と定義しているため、先生全般に対する尊敬意識を代表する評価ではないが、先生、女性保護者、男性保護者の中では、男性保護者への尊敬の程度が一番低いことが明らかとなった。

6. 学校の先生に対する保護者の態度

・学校の先生に対する保護者の態度を尋ねた。

「先生について何も話題にしない」が男女とも最も多く（男子43.9%、女子42.4%）、「先生のいうことは聞いたほうがよい」「先生のことを褒める」「先生に感謝している」などの肯定的態度は10%20%であった。「先生に対する不満を言う」などの否定的な態度は7%8%程度であり、先生への何らかのコメントをしている群では、肯定的な態度が多い傾向が観察された。

・先生に対する尊敬の程度をクロス集計してみると、親が先生に対する敬意を払っている言動をしている群では、生徒の先生に対する尊敬の程度が高く、生徒の先生に対する尊敬意識には、親が先生にどのような態度をとっているかが強く影響している可能性が示唆された。

7. 各種経験の割合

・今年度の高校2年生のリスク行動を含む各種経験の割合を尋ねた。喫煙は男子7.0%、女子3.3%、飲酒は男子23.9%、女子26.4%、違法薬物（マリファナ等）使用は男子0.8%、

女子0.2%、精神安定剤等（向精神薬）使用は男子2.8%、女子3.5%、万引きは男子4.2%、女子1.5%、自傷行為は男子4.0%、女子7.2%、交際は男子31.0%、女子40.1%、性関係は男子10.1%、女子13.3%であった。その他生活状況では、アルバイト経験は男子16.8%、女子26.5%、ピアスは男子4.5%、女子12.2%、化粧は男子2.0%、女子5.6%、眉の手入れは男子3.9%、女子7.3%、ヘアダイ（染毛）は男子8.2%、女子18.1%、いじめ（加害）は男子8.2%、女子4.7%、いじめ（被害）は男子7.2%、女子7.6%であった。

・注・今年度は昨年度までに比べ、全体的に各種リスク行動がかなり低率であった。この結果は、昨年度よりも実際にリスク行動が減少しているのか、調査対象となった学校が、昨年度までの学校群と学校の特徴が異なるためなのかは、この調査からは判断できないが、数年来のリスク行動の継続研究の傾向から、今年度の対象者は、昨年度までの対象者に比べ、リスク行動をとる対象者の少ない学校が参加している可能性がある」と推測される。

8. 友人、先生、保護者を好きな理由

・本調査では、一番親しい友人、先輩について尋ねたが、そのような人はいない男女とも1%前後で極めて低率であった。その友人／先輩と一番親しい理由は、男女とも「気が合うから」、「何でも話せるから」が、上位2位で、男子では「おもしろいから」48.7%で3位で、女子では「優しいから」48.7%、「おもしろいから」が続いた。

・本調査では、これまで出会った先生の中で最も好きな先生を選んでもらっているが、まず好きな先生がいないと答えた生徒は男子11.1%、女子10.4%と約1割は、これまでの16～17年の人生の中で好きな先生には出会っていないかった。好きな先生に出会った生徒の中で、その先生を好きな理由を尋ねた。男子で上位3つは、「おもしろいから」49.1%、「熱心でいつも一生懸命だから」46.2%、「教え方がうまいから」41.2%、女子では、「熱心でいつも一生懸命だから」54.9%、「おもしろいから」53.0%、「優しいから」51.4%であった。

・同様に保護者のどのようところが好きかを尋ねた。男性保護者では、「好きなところはない」が男子14.3%、女子11.7%で、男性保護者の好きなところの上位は、男子では「頼りになる」41.9%、「困ったときに助けてくれる」35.0%、「信頼できる」33.8%、「優しい」32.7%で、女子では「優しい」42.2%、「困ったときに助けてくれる」39.4%、「頼りになる」37.4%、「おもしろい」33.8%であった。一方、女性保護者に関しては、女性保護者の好きなところは、男子では「よく話を聞いてくれる」46.7%、「優しい」42.2%、「困ったときに助けてくれる」39.6%、「信頼できる」39.5%、女子では「よく話を聞いてくれる」60.3%、「困ったときに助けてくれる」57.1%、「信頼できる」48.1%であった。

・近年のお笑い番組の影響なのか、親しい／好きな理由の中に、女性保護者以外では、友人、先生、男性保護者が好まれる要因の上位に「おもしろいから」という理由があげられていることが特徴的であった。

9. 家庭学習、パソコン使用、ゲーム実施、ケイタイ使用、テレビ視聴

・家庭学習時間…塾での勉強時間も含めて、学校から帰宅後一日どれくらい学習するかを尋ねた。一日の家庭学習時間の平均値は男子50.6分、女子54.9分であり、昨年までの結果より家庭学習時間は長かった。

・パソコン使用時間…高校2年生のパソコン所持率は男子80.1%、女子78.3%と約8割の生徒がパソコンを所持していた。次に、一日にどれくらいパソコンを使用するかを尋ねた。一日のパソコン使用時間の平均値は男子68.6分、女子47.3分であり、女子に比べ男子の方が長かった。

・ゲーム実施時間…一日にどれくらいゲームをするかを尋ねた。一日のゲーム実施時間の平均値は男子50.0分、女子14.7分

あり、女子に比べ男子の方が顕著に長かった。

・ケータイ使用時間…高校2年生のケータイ所持率は男子95.6%、女子97.6%とほぼ全員がケータイを所持していた。次に、一日にどれくらいケータイを使用するかを尋ねた(見ている時間も含めて)。一日のケータイ使用時間の平均値は男子25時間、女子36時間であり、昨年までと同様、男子に比べ女子の方が長かった。

・テレビ視聴時間…ニュースや教育番組を除いて、一日にどれくらいテレビを見ているかを尋ねた。一日のテレビ視聴時間の平均値は男子18時間、女子23時間であり、男子に比べ女子の方が長かった。

10. 自己肯定感

・「あなたには欠点がありますか?」という質問と「あなたにはいいところがありますか?」の2つの質問を組み合わせて、生徒を下記4群に分けた。それによると、自己肯定群(健全群)は男子62.7%、女子59.4%と6割前後であった。それに対

し、自己否定群は男子34.6%、女子39.2%と3〜4割であり、その他少数ではあるが、自分の欠点への認識が少なく、いい点だけを認識している自己愛群が、男子1.8%、女子0.9%存在し、自分のいいところも悪いところもないとする分析不能群が、男子0.9%、女子0.5%存在していた。今年度の結果は昨年の結果とほぼ同様であった。

※①「自己肯定群」…「いいところ」とてもある+少しある、「欠点」少しある+とてもある

※②「自己否定群」…「いいところ」あまりない+まったくない、「欠点」とてもある+少しある

※③「自己愛群」…「いいところ」とてもある+少しある、「欠点」まったくない+あまりない

※④「自己分析不能群」…「いいところ」まったくない+あまりない、「欠点」まったくない+あまりない

11. 東日本大震災の影響

・東日本大震災のあと何か考えが変わったかどうかを尋ねた。最も多かつ

たのは「少し変わった」という回答で、男子55.5%、女子66.1%と60%前後であった。「非常に変わった」生徒は男子14.4%、女子16.8%、「何も変わらなかった」は男子15.1%、女子5.2%で、全体的に女子の方が、震災後、何らかの精神的な影響を受けていた。また、震災後の意識変化で被災地と被災地でない地域の生徒での意識差を調べた。その結果、当然のことではあるが、

「非常に変わった」と回答した生徒が、被災地外では15%前後、男子12.2%、女子15.3%であるのに対し、被災地の生徒では25%前後(男子23.0%、女子27.6%)と約10%高率であった。しかしながら、震災後気持ちの上で「何も変わっていない」と回答した生徒は、被災地と被災地以外の地域の差は3〜5%と少なく、被災していない地域の生徒たちにも精神的な影響を受けている(無関心なわけではない)可能性が示唆された。

・前述の質問で何か変わったと回答した生徒に、具体的に何がかわ

たのかを尋ねた。

上位にあがった回答は、男女とも同じで「自然災害の恐ろしさを感じるようになった」、「自分の今の状況(人間関係・環境など)の大切さをあらためて考えるようになった」、「命の大切さを考えるようになった」であった。

12. 自分に対する価値観

・「どういうときに自分に価値があると思いますか」ということを尋ねた。男女とも1位は「誰かの役に立っているとき」(役立ち感)で、男子59.7%、女子72.0%で、男女とも役立ち感を感じるときに自分の価値を見出していたが、特に女子でその傾向が顕著であった。2位以降は男女で違いが見られ、男子では、2位「何か他の人よりもよくできたこと」(相対評価)、3位は「他の人たちが自分を評価したとき」(他者からの評価)、4位「グループ内で人間関係がうまくいっているとき」(友人関係)がうま

くいっているとき(友人関係)、5位「友人から好かれているとき」(友人関係)、5位「友人から好かれているとき」(友人関係)がうま

人関係)の順であった。

一方、女子では、2位「友人から好かれているとき」(友人関係)、3位「他の人たちが自分を評価したとき」(他者からの評価)、4位「何か他の人よりもよくできたとき」(相対評価)、5位「グループ内で人間関係がうまくいっているとき」(友人関係)の順で、高校生が自分自身に価値があると感じるのは、役立ち感、良好な友人関係、他者からの評価、他者との比較で勝っていたときであった。価値観の最上位であった役立ち感に関しては、高校生の自尊心を向上させるためにも、ぜひ考慮すべき点であると考えられた。また、自分の価値について友人関係が大きなウェイトを占めている点は、コミュニケーション力の著しい低下や友人間の相互依存関係等、今後、高校生に關しての課題である可能性が示唆された。

13. 社会性の程度(ニート・引きもり尺度)

・高校生の社会性を測定

するために、8つの質問をした。①「将来、何をしたいのかよくわからない」に「とてもそう思う」と強く同意している生徒は男子26.3%、女子22.3%と20〜30%の生徒が自分のしたいことが見つからずにいる。②「自分は人と同じくらいのことのでき、将来役に立つと思う」という質問では、全く役に立たないと思っている生徒が男女とも6%程度存在していた。③「嫌いな人、苦手な人ともうまくつきあう努力をしている」は「少しそう思う」という消極的な同意が最も多く、男子36.5%、女子44.9%と40%前後であったが、「まったくそう思わない」という関係性を築く努力を完全拒否している群は男子8.8%、女子4.3%であった。④「困ったときに相談できる人がある」では、男子5.5%、女子2.9%が相談できる相手をもたなく持っていないと回答していた。⑤「勉強しておくことは将来のために必要だと思う」で完全否定している群は男子2.7%、女子1.2%存在した。⑥「人付き合いが苦

しい」と感じるのは、役立ち感、良好な友人関係、他者からの評価、他者との比較で勝っていたときであった。価値観の最上位であった役立ち感に関しては、高校生の自尊心を向上させるためにも、ぜひ考慮すべき点であると

手だと思ふ」に強く肯定している群は男子121%、女子91%と10%前後もの生徒がコミュニケーションに苦手意識を持っていた。⑦「自分に自信が持てない」に強く同意している群は男子235%、女子313%と極めて多数の生徒が自信を持っていなかった。⑧「自分は誰にも必要だと思われていないときがある」では強い同意は男子151%、女子193%とこれもかなりの高率に達していた。

14. 能動的（受動的）生活態度

・高校生の能動的生活態度を測定するために、6つの質問をした。①「いつも誰かの指示にしたがっている」に強く同意している受動的な生徒は男子54%、女子30%存在した。②「自分でしっかりと計画を立て、行動している」という質問では、強く否定している群が男子100%、女子65%と10%弱の生徒が無計画な生活を送っていた。③「その日その日を自由に気楽に過ごしている」は、強く肯定している現状に流さ

れている群は、男子28.1%、女子22.8%と20%前後の生徒がその日その日の気楽さ流されて生きていた。④「先のことまでは、あまり考えずに生きている」に強く肯定している群は、男子182%、女子133%と、10%前後の生徒が先のことまで考えずに暮らしているというところが示された。⑤「毎日がとても充実している」を強く否定している群は男子60%、女子39%存在した。⑥「つらくても目標に向かって努力している」に強く否定している群は男子52%、女子44%と5%前後の努力を放棄していることが明らかとなった。

15. 将来大切なこと

・「将来あなたにとって大切なことは何ですか」に関して13の質問をした。次の項目に対し、非常に大切であると思っている割合を示す。男子が自分の将来について大切に思っていることを高い順に並べると①「健康であること」79.8%、②「やりがいのある職業につくこと」71.2%、③「愛

する人を大切にする」と70.5%、④「あたにかい家族を作ること」65.6%、⑤「自立した生活を送ること」64.6%、⑥「心穏やかに生活すること」64%、⑦「努力して何かを成し遂げること」60.3%、⑧「趣味に没頭する時間があること」55.3%、⑨「世の中の役に立つこと」48.5%、⑩「高い収入を得ること」40.7%、⑪「仕事で出世すること」36.5%、⑫「外見がかっこいい・美しい人であること」17.8%、⑬「努力しないでよい結果を得ること」14.4%という結果が得られた。一方、女子が自分の将来について大切だと思っていることを順番に記すと、①「健康であること」81.8%、②「愛する人を大切にすること」72.0%、③「心穏やかに生活すること」71.5%、④「あたにかい家族を作ること」71.2%、⑤「やりがいのある職業につくこと」71.1%、⑥「自立した生活を送ること」62.2%、⑦「努力して何かを成し遂げること」59.6%、⑧「趣味に没頭する時間があること」50.5%、

1. 調査の目的と概要について

⑨「世の中の役に立つこと」48.2%、⑩「高い収入を得ること」27.9%、⑪「仕事で出世すること」26.7%、⑫「外見がかっこいい・美しい人であること」17.9%、⑬「努力しないでよい結果を得ること」6.5%の順であった。

本調査は、平成二十三年度日本財団の助成事業「高校生の育成環境改善のための継続的実態調査事業」として実施した。高校生を取り巻く環境の変化により、高校生の生活・意識が変化し続けている。こうした状況について大切な状況を把握し、把握しつつ、保護者をはじめ社会全体が子ども達の育成環境を改善していくことが大切であるとの考えから、高校生を対象に調査を実施し、結果を分析した。

本調査は昨年6月に協力者委員会を立ち上げ、委員長に京都大学大学院准教授木原雅子氏が就任した。また委員には同大学「こころの未来研究センター」准教授内田由紀子氏、全国高等学校長協会生徒指導委員会委員長、全高P連の健全育成委員会が構成され、企画立案から実施までを行った。また、アンケート調査項目は京都大学が立案し健全育成委員会の検討を経て決定した。

調査対象は高校2年生。全国を9地区に分け、各地区5校で各校4クラスの子供にご協力をいただいた。

アンケート調査期間は8月下旬から9月中旬までとし、データ処理会社を集計を依頼。集計結果は京都大学の木原研究室のご支援で分析・研究を行った。

2. 調査結果について

調査結果は平成24年2月12日、東京都文京区にある東京ガーデンパレスにおいて、分析を担当した京都大学准教授木原雅子氏による報告会を、本連合会会員とその関係者とマスコミ取材の約130名を対象に開催した。

報告で注目したのは、高校生の自己肯定感

と生活・意識との関係である。そして、一日の学習時間について見ると高校生の学習時間が一時間に満たないという結果がでている。

パソコン・携帯電話の使用時間との関係では、自己肯定感が低い高校生ほど家庭での学習時間が短く、パソコンや携帯電話の使用時間が長かった。また、自己肯定感が低いからといって、その生徒が他に比べて常に目立たないわけではなく、保護者や教員など周囲のものはなかなか気付にくい面もある。さらに、家庭における父親の存在が大変薄いなどの調査結果が得られた。

木原准教授は、友人や保護者との関係が生徒の自己肯定感に大きな影響を与えていると考えられ、高校生に至る成長期の人的な育成環境の変化がこのような結果になっていると分析している。

(文責・本部事務局)



シリーズ **視点**

～各地区の活動～

中四国地区 徳島県連の活動から

「自転車事故防止への取り組み」

徳島高P連では、平成23年10月25日、警察庁が各都道府県県警に自転車の車道通行の徹底や、取り締まり強化を指示したことを受けて、1月24日に総務委員会を開催し、対応を協議した結果、同日、県土整備部に対し「高校生の主要通学路における自転車道の設置及び自転車レーンの整備について」、県警本部交通部に対し「高校生の通学路における自転車の歩道通行への対応について」との陳情を行った。

主な内容は、『高P連は、従前から、生徒の自転車運転中の傘さし・並進・携帯使用・イヤホン使用・無灯火などの違反行為が絶たない憂えるべき状況を改善する為に「高校生の交通マナーアツプ研修会」を開催するなど、あらゆる機会をと

として家庭での安全教育の充実に取り組んできた。

しかし、本県では、

高校生の主要な通学路の大半は、自転車

が車道の左側を安全

に通行するには、道

路環境が未整備であ

るばかりでなく、通学時

間帯は自動車の通行量

が多い箇所もあり、自転

車の車道通行は、極めて

危険な状況になっている。

自転車道が安全に車道

通行ができる環境整備と

環境を整うまでは、自

転車の歩道通行について

も柔軟な対応をお願い

する。』とした。

県警交通部からは、「本

県の道路事情を勘案し、

柔軟に対応していき

たい」との前向きな回答

が得られた。

意見交換では、高P連

役員と警察官が合同で

自転車通学の実態を巡

視することの合意が得

られた。

12月9日の登校時間

には、徳島市の田宮街

道において、椎野高P

連会長をはじめ、関係

校のPTA会長と指導教

諭・徳島西警察署の警

官が一緒に「高校生の

自転車登校

の交通マナー遵守指

導」を実施した。

当日は、氷雨の舞う生

憎の天気であったため

に、傘さし運転が目につ

いたが、高校生たちの元

気な挨拶に寒さを忘れる

時間でもあった。また

、高校生のマナー違反

より、大人の違反も多く

見受けられ、社会全体

でのマナー教育、安全

教育の必要性を強く感

じた一日であった。

自転車事故は高校生が

加害者となり重大な事

故に発展するケースも

増えている。各県、ま

た学校所在地によつて

は地形や地域性が異

なり、自転車通学の少

ない学校もあるかと思

うが、今後も自転車

事故防止の具体的な

取り組みが、徳島県連

だけではなく、全国レ

ベルで展開されること

を期待する。(文責 椎

野正敬)



(社)全国高等学校PTA連合会 後援
AIU 高校生国際交流プログラム
(参加費無料)
国際交流を超える人間交流

「育てたいのは、
子どもたちの未来。」
AIU CHARTIS

AIU 高校生国際交流プログラム事務局
Tel 03-5819-8288
Email hsd@highschooldiplomats.org
http://www.highschooldiplomats.org/

MS&AD 三井住友海上

さあ来い! リスク。

リスクとトータルに戦う
総合保険ブランド[GK]

三井住友海上火災保険株式会社
〒104-8252
東京都中央区新川 2-27-2
www.ms-ins.com

TOKIO MARINE NICHIDO

地球の未来にできること。
マングローブ「海の森」づくりは、
その答えのひとつです。

東京海上日動火災保険株式会社
東京都千代田区丸の内1-2-1
〒100-8050
http://www.tokiomarine-nichido.co.jp/

日本の保険は、
ジャパンが変える。

損保ジャパン

株式会社 損害保険ジャパン
〒160-8338 東京都新宿区西新宿1-26-1
TEL. 03(3349)3111
ホームページアドレス http://www.sompo-japan.co.jp

委員会の報告

健全育成委員会

委員長 岡藺 正浩

第三回健全育成委員会は、本年度のアンケート調査の総括と今後の調査の進めかた等を検討しました。アンケート調査の内容は前年度に決定をしておくこと。そして、各地区にアンケート用紙を一括に送るのではなく、事前に、企画文書として案内文を送付し内容を周知していただき、その後調査書を送付する手順とします。また、調査結果の活用について、全国大会の分科会にて成果発表を行うことを確認しました。薬物乱用では、情報端末の進化により、危険度が増している。保護者にたいして薬物乱用防止パンフレットの活用を推進します。近年自転車事故が多く発生している。子どもたちが被害者にならない、加害者にならないために、子どもたちの命を守る取り組みとして「自転車、バイク、歩行者のマナーアップ運動」を実施します。各機関、団体等と連携協力して、交通安全教育の充実のために効果的な活動を推進していきます。以上の三点を確認し、委員会を終

えました。

進路対策委員会

委員長 正木 毅

第三回進路対策委員会では、今年度実施した事業について来年度への引き継ぎ事項等を確認いたしました。

「新規高等学校卒業予定者に対する雇用確保」について、厚生労働大臣及び文部科学大臣宛てに要請文を提出しました。が、より効果を発揮するよう産業関係団体にも拡大することについてその可能性を検討しました。また、今年度実施した「高校生と保護者の進路に関する意識調査」について、その効果的な活用や平成二十五年度に実施予定の第6回調査への申し送り事項等を確認いたしました。

さらに、東京大学が表明した秋入学への全面移行について、私立を含む大学全体に検討の動きが広がり、経済界にも賛同する動きが出てきていることから、高校生にとつては一大関心事、一生に関わることでありますので、理事会から、高校生にどのような意味があるのか、どのような影響があるのか等の観点で関

連情報の整理、収集を今後鋭意行うよう示されたところです。

調査広報委員会

委員長 青木真佐枝

調査広報委員会では今年度、年間を通して、いかにして単位PTAの会員まで読んで貰えるかを考えて参りました。2月10日に開催されました第3回委員会でも、配布方法や記事の充実、タイムや表紙の検討、ホームページの効果的な利用など、様々な意見が出ましたが、各県連や単Pの広報紙ですらかなかなか会員に読んでいただけない現状で、これといった決め手は出てきませんでした。

それでも、手にとつて写真や活字を読むことのできる「会報紙」は全高P連からの情報発信の大事なアイテムです。これからは各委員が地区や県連での折々の集会や会議で積極的に周知に努め、各地の広報紙でも紹介していただくなどして、読者を増やしていきたいと思ひます。

活動の紹介と同様に、シリーズとして長く続けていきたいと思ひます。調査広報委員会から原稿依頼が届きましたら、各地の情報を全国の会員にお知らせするためによくご協力をお願いいたします。

研修委員会

委員長 早川 悟史

第四回の研修委員会は、次年度和歌山大会の取り組み状況、大会ガイドラインの確認、本年度の総括、次年度への申し送り事項を協議事項に挙げて行いました。和歌山大会の取り組み状況では、申込方法の説明と、バスが百台以上になると予想さるなどの地方特有の問題と対策が報告されました。また地元団体からの特別協賛（広告を伴わない協賛）という初めての試みも発表され、この特別協賛は今後の大会でも活かされると期待されます。そして、コスト削減の案として、報告書を冊子ではなくDVDで配布するとの提案もありました。大会ガイドラインの確認では、今年度北海道大会での活用状況を報告していただき、ご意見をいただきました。本年度総括と次年度申し送り事項については、委員

は複数年の方が中身の濃い委員会になる等の意見が出ました。最後に、次々年度の山口大会の新しい取組み等の報告があり、和歌山大会と共に山口大会も素晴らしいものとなると期待されます。

賠償責任補償制度

運営委員会

委員長 三浦 啓亨

平成14年4月に55万人の加入で本制度はスタートしましたが、平成二十三年度は保険料の改定に伴い、この制度の内容を初心の理念にかえり、再認識し、新たにスタートした年といえます。また、全高P連の組織も新体制となり、自転車事故防止のためのDVDも新しくなりました。

保険金の支払いに目を向けますと相変わらず自転車の加害事故が高額支払いの案件を占め、学校内ではガラス破損等の少額事案の案件が多数を占める状況にあります。そうした中で、当委員会としましては自転車事故防止のために全高P連作成のDVDと、この度コープ共済より提供されましたDVDを研修会等で利用していただき、事故防止のための一役を担えればと考えています。

の補償であることを認識していただくとともに、事故防止に尽力していただき、更なる本制度の普及をお願いいたします。

一般社団法人

移行準備委員会

委員長 工藤 重信

制度の改正を受け、平成20年12月1日をもってこれまでの社団法人全国高等学校PTA連合会が特例民法法人となり、五年間の移行期間中に新しい制度の法人に移行することが義務づけられました。

これを受けて本委員会は、平成20年7月に新法人化を目指し発足。その後、平成22年1月に一般社団法人への移行を目指すことを決め、同年2月に、平成24年4月1日に現在の社団法人から、新法人制度の一般社団法人に移行することを目的として、本年度は定款、同細則及び諸規程の見直しを行つて総会の決定をいただきました。また、9月には内閣府に提出する申請手続きの確認を行い、本部事務局と処理分担の調整を密にし、申請書の策定を行いました。その結果、平成24年3月23日付けで内閣府より相川会長宛認可が下りました。

大会のメインテーマは、「和をもつて響き合え！」サブテーマに「つれもて広げる 共育の輪」を掲げ、和歌山大会実行委員会が諸準備を進めています。

【趣旨】
近所のおばさんに朝声をかけられたり、よそのおじさんに叱られたり、今思えば、私たちが子どもの頃はいつも誰か



第六十二回全国高等学校PTA連合会大会和歌山大会が平成24年8月22日(水) 23日(木) 24日(金)の三日間和歌山ビッグホエールをメイン会場に開催されます。

第六十二回全国高等学校PTA連合会大会 和歌山大会のご案内



が見てくれていました。行き過ぎた個人主義・格差社会……自分を見ているのは監視という名の力メラだけ。世に物や情報が溢れた代償として、私たちは『人とのつながり』という大切なものを失いつつあるのではないのでしょうか？

現在、物質的に豊かで便利な環境に甘んじながらも、このままではいけないと多くの人々が感じています。私たちの大

事な子どもたちの環境をもっともっと温かい血の通ったものにしたい。そのためには家庭や学校だけでなく、地域や公共の力は不可欠です。地域の人たちも、子どもたちの元気な姿は希望となります。子どもも大人も共に育つ社会をめざして、私たちにできること、私たちがやるべきことは何なのか。真剣に取り組んで行く場にしたと願っています。

大会前日

8月22日(水) (ホテルアバローム紀の国)

時 間	行 事
14:00~15:00	大会運営会議
15:00~15:20	研修委員会打合せ
15:30~16:30	全国事務局長会議
15:30~17:00	分科会別会議
17:30~19:30	歓迎レセプション

和歌山で



お待ちしております

大会 第1日

(主会場) 和歌山ビッグホエール (副会場) 和歌山ビッグウエーブ	
時 間	8月23日(木)
9:50~	受 付
10:10~10:40	高校生アトラクション
11:00~12:00	開会式・表彰式
12:00~	昼 食
12:15~13:00	高校生アトラクション
13:20~16:00	『基調講演』 川口 淳一郎氏 (宇宙航空研究開発機構教授)

大会 第2日

時 間	8月24日(金)
8:30~	分科会 A 受付
9:10~11:10	第1分科会: ビッグホエール 第3分科会: ビッグウエーブ 第4分科会: ビッグウエーブ 閉会式
11:20~12:00	分科会 B 受付
9:00~	高校生アトラクション
9:10~9:30	第2分科会: 和歌山市民会館
9:40~11:40	特別第1分科会: 紀南文化会館 特別第2分科会: 和歌山市民会館 閉会式
11:45~12:00	